



**① キャッシュレス化について
日本と世界の現状**

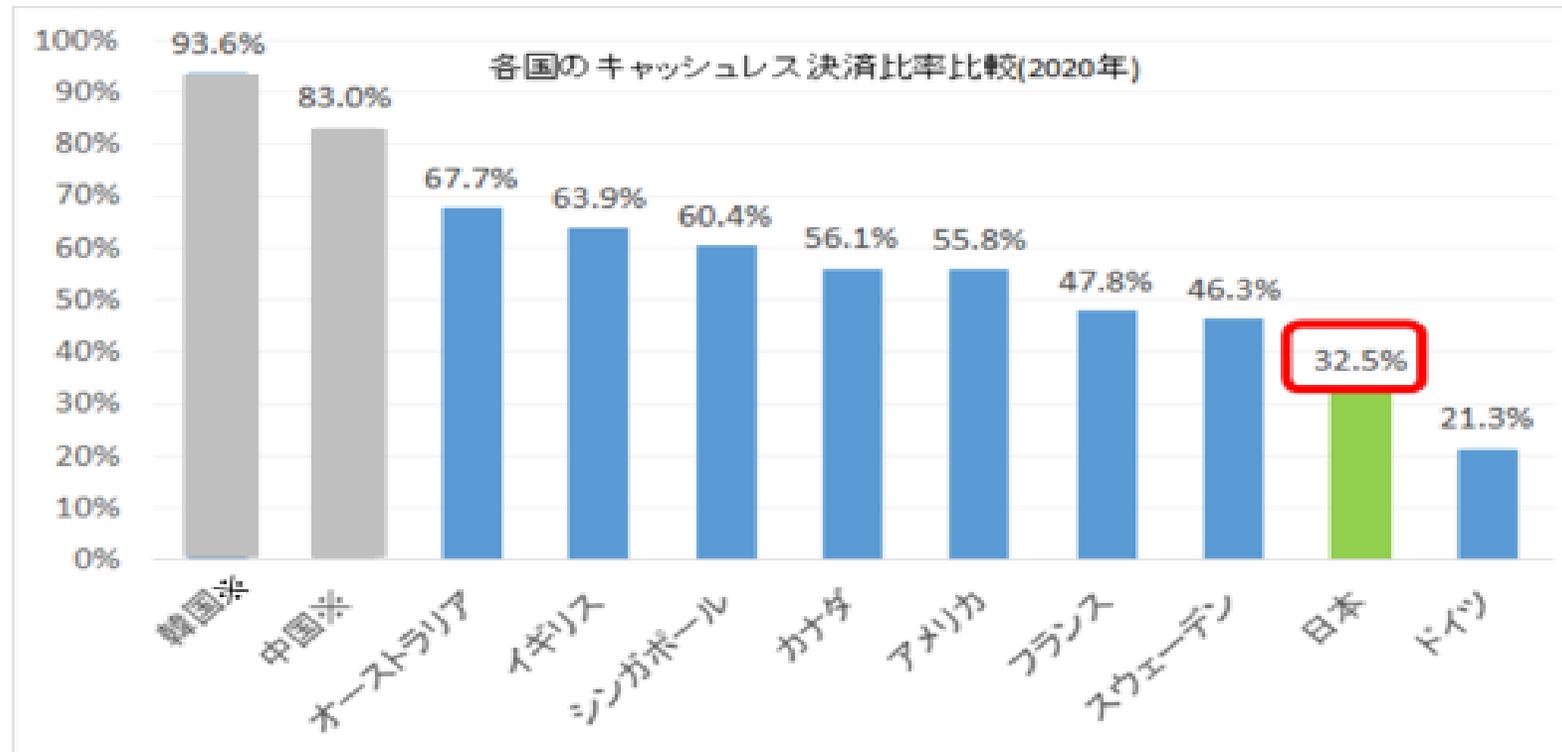
キャッシュレスの分類

- クレジットカード
- コーポレートカード
- デビットカード
- モバイル決済



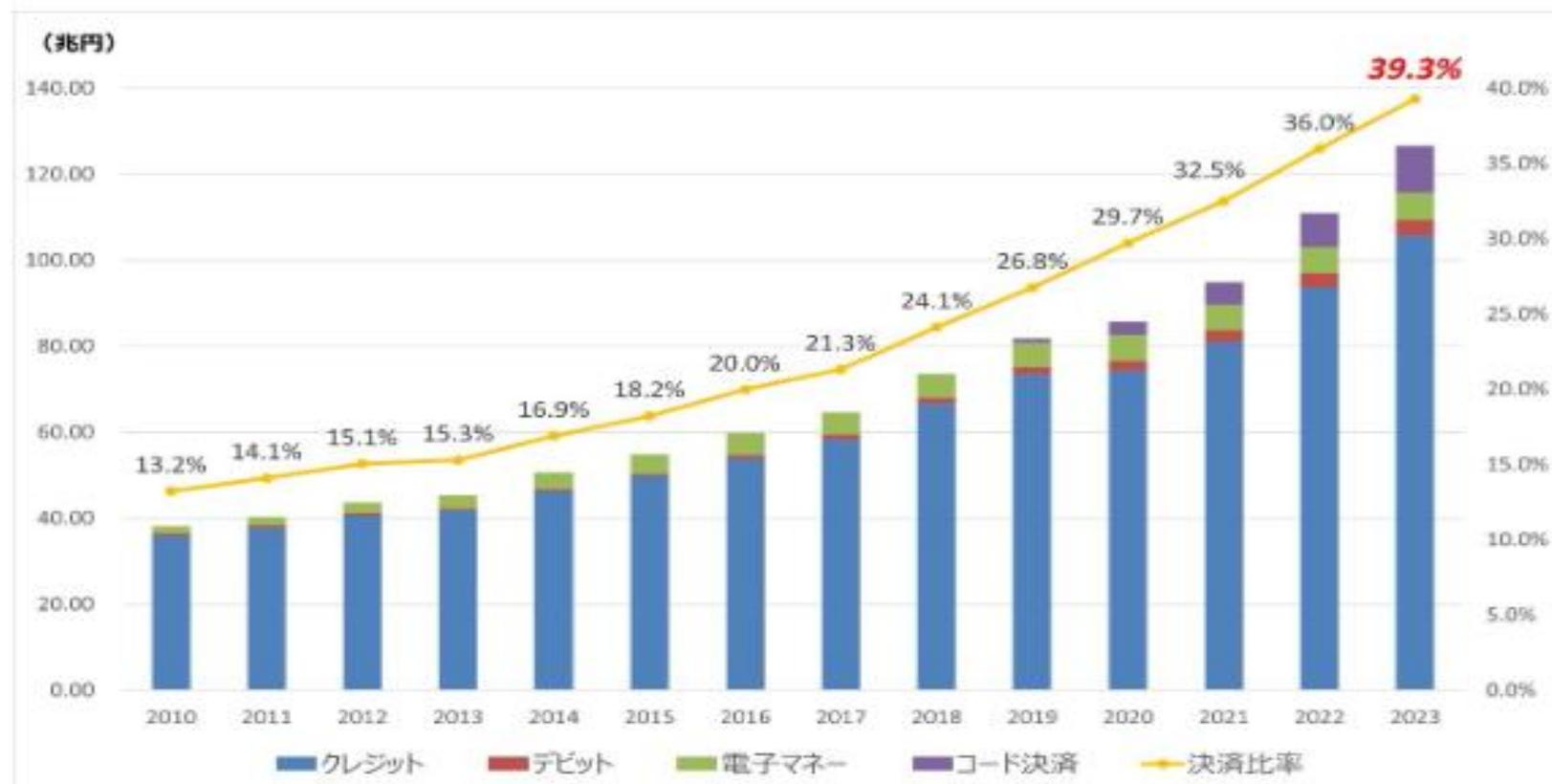
2. 世界の現状

世界各国のキャッシュレス比率比較



1 日本の現状

我が国のキャッシュレス決済額及び比率の推移（2023年）



1. 日本の現状

キャッシュレス決済額及び比率の内訳の推移

(兆円)	暦年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	
キャッシュレス(CL)合計	決済額	64.7	73.5	81.9	85.8	95.0	111.0	126.7	
	比率	21.3%	24.1%	26.8%	29.7%	32.5%	36.0%	39.3%	
	①クレジット	決済額	58.4	66.7	73.4	74.5	81.0	93.8	105.7
		CL内割合	90.2%	90.7%	89.7%	86.8%	85.3%	84.5%	83.5%
	②デビット	決済額	1.1	1.3	1.7	2.2	2.7	3.2	3.7
		CL内割合	1.7%	1.8%	2.1%	2.5%	2.8%	2.9%	2.9%
	③電子マネー	決済額	5.2	5.5	5.8	6.0	6.0	6.1	6.4
		CL内割合	8.0%	7.5%	7.0%	7.0%	6.3%	5.5%	5.1%
	④コード決済	決済額	-	0.2	1.0	3.2	5.3	7.9	10.9
		CL内割合	-	0.2%	1.2%	3.7%	5.6%	7.1%	8.6%
民間最終消費支出	額	303.3	305.2	305.8	288.6	292.0	308.5	322.4	

日本 キャッシュレス支払が普及しにくい背景

- 治安の良さ（盗難の少なさなど）
- 現金に対する信頼度（偽札の流通が少ないなど）
- 店頭での現金取り扱いの煩雑さが少ない
- ATMの利便性がよく現金の入手が容易

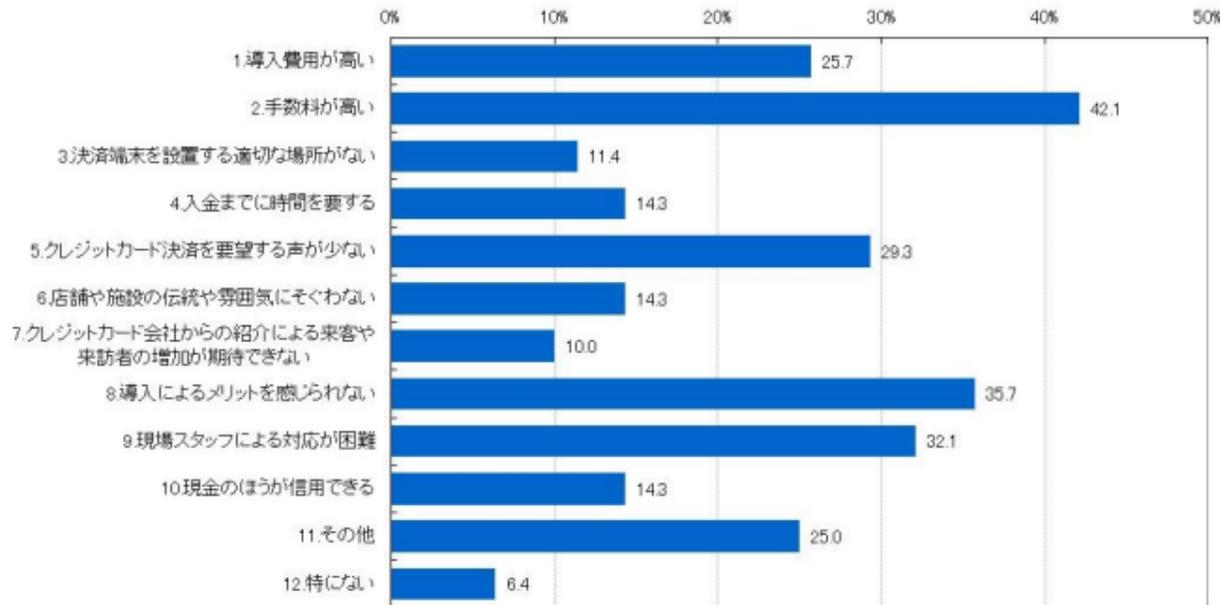


現金流通高が他国と比較して著しく高い



日本 キャッシュレス支払が普及しない背景（実店舗）

図表 20 キャッシュレス支払（クレジットカード）を導入しない理由（n=140）



（出典）経済産業省「観光地におけるキャッシュレス決済の普及状況に関する実態調査」

（平成 29 年 2 月 28 日公表）

手数料が高い

導入によるメリットを感じられない

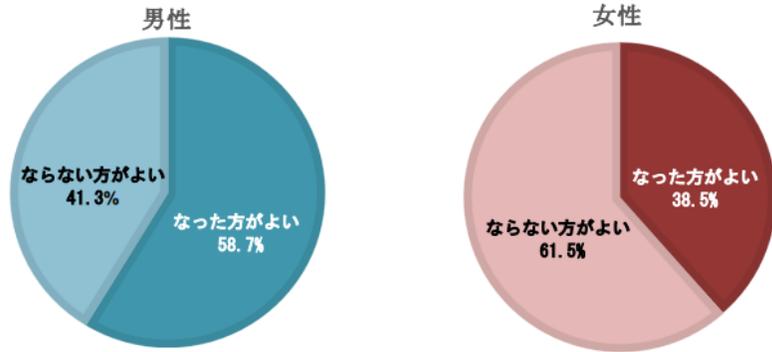
現場スタッフによる対応が困難

「導入」・「運用・維持」・「資金繰り」

日本 キャッシュレス支払が普及しない背景（消費者）

図表 22 キャッシュレス社会への期待と不安

Q 近い将来、紙幣や硬貨などの現金を使う必要がない「キャッシュレス社会」になるのではないかとわれています。あなたご自身のお気持ちは「キャッシュレス社会」に「なった方がよい」「ならない方がよい」のどちらに近いですか？（単一回答）



女性約 6 割は反対

反対の理由

- 浪費しそうだから
- お金の感覚が麻痺しそうだから など

	調査人数	なった方がよい	ならない方がよい	差
全体	3600	48.6	51.4	-2.8
男性	1803	58.7	41.3	17.4
女性	1797	38.5	61.5	-23
男性 20 代	281	57.7	42.3	15.4
男性 30 代	340	58.5	41.5	17
男性 40 代	430	58.6	41.4	17.2
男性 50 代	356	59	41	18
男性 60 代	396	59.3	40.7	18.6
女性 20 代	272	36.8	63.2	-26.4
女性 30 代	333	35.4	64.6	-29.2
女性 40 代	422	36.7	63.3	-26.6
女性 50 代	357	42	58	-16
女性 60 代	413	40.9	59.1	-18.2

(人)

(%)

(pt)

※ ±10pt 以上の差があったもののうち、スコアが高いほうに色付け

日本 キャッシュレス支払が普及しない背景 (支払サービス事業者)

現状の支払サービス事業者におけるコスト負担

- 運営していくには多様な費用がかかっており、新たな投資やサービス利用料の引き下げに慎重にならざるを得ない環境にある

世界的にも稀有なマルチアクワイリング環境

- 中小・零細事業者向けの加盟店が後回しになったり、加盟店手数料が高止まりしたりする傾向

ドイツでの現金に対する考え方

- 高齢者のような、社会の一部の層は、現金の支払い
- 現金は子供たちをお金にならさせるため
- 現金は他の決済手段よりも支出の確
- 支払いの匿名性のためにも、現金は
- 現金廃止は市民の自由を侵害する
- 現金廃止は私に大きな影響を与える

↑これら以外にもドイツは現金を肯定的な考えをまたも保持している

現金は
匿名性
が守られる

どのようにして
世界ではキャッシュレスが
普及しているのか

クレジットカード 普及例

② 韓国の現状

キャッシュレス比率

89.1%

→世界で最も高い (2018)

コーポレートカードを除くと

67.8%

韓国のキャッシュレス化の背景

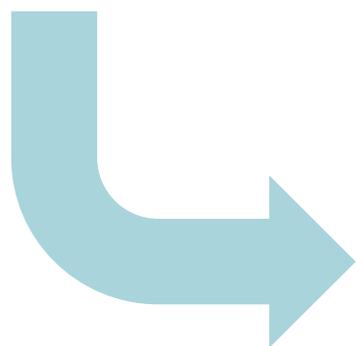
東南アジア通貨危機

実店舗の
脱税防止

消費活性化

韓国のキャッシュレス化の背景

東南アジア通貨危機



所得控除

年間クレジットカード利用額の20%
(上限30万円)の所得控除

宝くじ参加券

1000円以上の利用で毎月行われる
宝くじの参加券の付与

義務化

店舗でのクレジットカード取付義務化
(年商240万円以上の店舗が対象)

韓国のキャッシュレス化の背景

東南アジアモバイル決済

その結果3年間で（1999～2002年）

発行枚数 2.7倍
利用金額 6.9倍

ド利用額の20%
の所得控除

用で毎月行われる
印券の付与

義務化

店舗でのクレジットカード取付義務化
（年商240万円以上の店舗が対象）

アメリカの現状

キャッシュレス比率46.0%（2019）

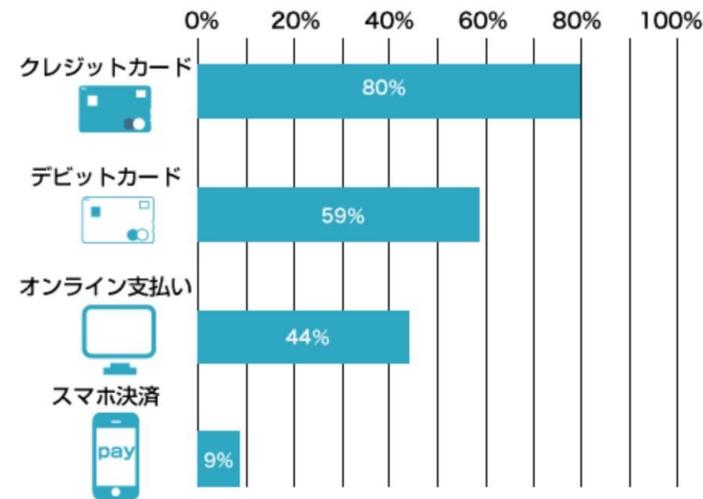
→同年日本は19,8%

キャッシュレスの中でもクレジットカードの利用が多い

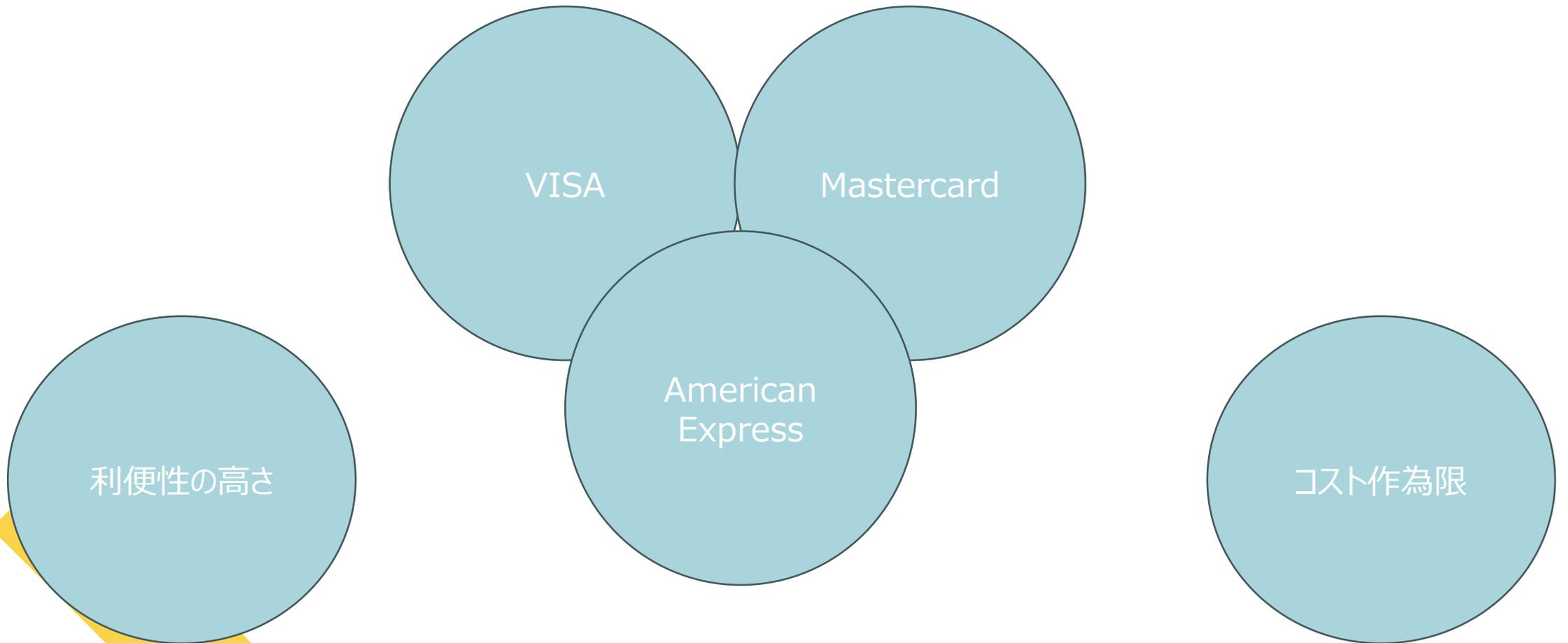
全体の30%は現金取引

→クレジットカードや銀行口座を持ってない低所得者

アメリカの各キャッシュレス決済の使用状況



アメリカのキャッシュレス化の背景



④ オーストラリア

- カード決済方法として 55%
→ コンタクト決済
- 残りの 5% はスマートフォンなどのデジタルデバイスに登録したデジタルウォレットによる決済方法である。



オーストラリアのキャッシュレス状況

- オーストラリアでは現金利用割合が低い

↑その割合は**27%**

10年前は69%と比較すると大幅に現金利用率が下がっている

同じ歳の消費者の支払い方法のうち

デビットカード又はクレジットカード利用者割合は約**60%**

圧倒的に現金利用よりカードによる決済が多い

オーストラリアキャッシュレス化の背景

- そもそもデジタル化への適用が容易である。
 - 技能労働者の受け入れ、移住者の増加
 - 若年層の人口割合が多い、新しい文化にも適用できる
- コロナの影響で非接触決済が普及した

デビットカード 普及例

キャッシュレス普及率

★シンガポールの15歳以上の
銀行口座保有者割合 **98%**

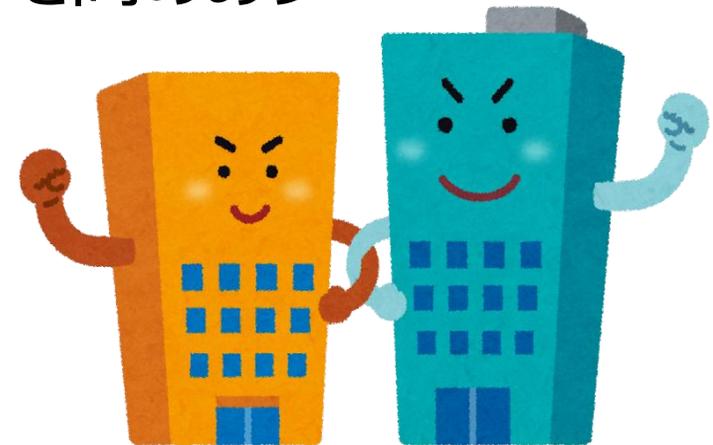
★デビットカードの保有率 **90%**
(クレジットカード保有率 **49%**)

キャッシュレス決済の普及背景

- シンガポールは小国であるため、国際競争を生き残るためにはデジタル技術をいち早く取り込み、生産性を向上させる必要があった。
- 金融業界・関連企業との連携や資金援助、研究機関と連携したデジタル教育の推進などで、デジタル技術を活用できる社会づくりを進めた。

シンガポールのキャッシュレスの特徴

- 一つの大きい企業が市場を占拠するのではなく、多数の企業が様々な形態でキャッシュレス決済を発展させている。
- 企業間の垣根が低く、各企業が、研究施設などを公開し、取り組みを紹介するイベントがあるほどであり、ライバル企業がお互いを高めあうような風潮がある。



電子マネー

⑤ スウェーデンの現状

- デビットカードとSwishが主流
- 総人口約 1,000 万人の約70%がSwishを利用
(2020年)
- 若者の90%がSwishを利用
- 交通機関や店では現金NGが多い



スウェーデンのキャッシュレス化

- 金融経済危機に伴う銀行経営方針の大きな転換
- 現金の輸送・回収コストや過疎地のATM維持コストが高かった
- コストダウンを図り生み出された資金を新たな電子マネーの共同発・普及に投入した
- その結果、大手銀行が共同でSwishと呼ばれる携帯電話番号と銀行口座を紐づけたモバイル個人送金システムを開発

中国の現状

- キャッシュレス比率83.8%（2023年）

→世界第2位

- Alipay→10億人以上のユーザー

- We Chat Pay→We Chat 利用者が利用可能→8億人以上のユーザー

李克強首相の
インターネット+行動計画によって
中国のオンライン決済サービスが
普及



中国のキャッシュレス化の背景

安全性

決済システムやルールが統一されていない
→これらを刷新してキャッシュレス化の実現

• 印刷・流通コスト

中国のキャッシュレス

- スマートフォンによる、インターネットの使用率の高さを利用している。
- クレジットカード普及の低さ
 - 低中所得者が多いため信用審査に時間がかかる
 - 銀聯カードの普及
 - 加盟店手数料や読み取り端末の設置などコスト高
- 中国人民元の最高額紙幣は2 1 0 0 円

まとめ



韓国

（法定、義務化）

ア

政府の後押しが必要

中国

電子マネー

推進

まとめ
